

「我が家にもインバウンドがやってきた」

といっても、多くの方は何のことかわからないと思います。本来の英語の意味は「内向きに入ってくる」ということのようなのですが、おもに旅行関連では外国人が訪日することを指しています（反対はアウトバウンドで、日本人が海外へ）。

数年前から関空などでも外国人旅行者が急増し、中国人などによる電気街での「爆買い」などは一時マスコミで大きく取り上げられました。スキー関連では、10年以上前から北海道のニセコに外国人が集中し、ここ数年前から白馬にシフトしています。最近では、東南アジアを含めアジア系外国人が白馬に急増しています。

そこで、「我が家にも・・・」と書いたのは、そうなんです。我が家の隣の空き地に、なんとマレーシア人が大きな別荘を建てると言うことです。しかし、別荘というのは建前で、今月からスタートしたオーナー不在の民泊の可能性が大きいのです。（管理は外国人宿泊施設の管理会社が請け負う）すでに緑の木々はすべて伐採され、いま整地が始まっています。私の住む白馬村「みそらの」地区は、昨年あたりから建築ラッシュ、ほとんどが外国人建物の新築か日本人が所有していたペンションや別荘を安く買ってリフォームです。八方尾根スキー場の北隣にある「和田野の森」は数年前から外国人の建設ラッシュ、かなり飽和状態になって「みそらの」及びそれにつながる「エコーランド」にシフトしてきたとされています。

軽井沢町は、町あげて民泊に反対しましたが、国の法律に自治体が制約を厳しくできないと言うことで、学校周辺などでの民泊は禁止、今後野放図になりかねません。外国人が来ること自体が悪いわけではありませんが、日本人の若者がスキーを含め、レジャーに費やせない現状を変えようとする政府の観光政策というより労働政策が問題ではないでしょうか。（私の知る若者も夕方から別のバイト勤務というダブルワーク）白馬村は、小さい自治体でありながら宿泊関係に従事している村民の割合が高く、都会を除けば全国でも3位以内に入るとか言われています。米のほかに果樹は全くといって栽培できず、野菜もほとんどできない（「道の駅」で販売している農産物の多くは近隣産）村は、観光でしか生きていけないといっても過言ではありません。日本人移住者が多く、また外国人との結婚（以前は、フィリピンなど、この十年くらいはオーストラリアなど）も多いので、学校でのいわゆるハーフの子どもの割合が他の自治体より高いのも特徴です。

東京一極集中の是正を叫んでも、地方には食っていける仕事がないので、若者は村を出て行かざるを得ません。少数のUターンがあっても、宿も農家も後継者難です。食っていける保障はありません。

白馬村には総合病院はありませんが、いくつものコンビニ、3つのスーパー、ホームセンター、個人病院や診療所なども多いので一般的な村よりは生活の心配はほぼありません。

スキー人口が減り、グリーンシーズンの観光によりやく目を向けてきた行政は、いま自転車などでの集客を模索しています。唐松沢が氷河の可能性があると研究者が指摘し、調査も始まろうとしています。

いよいよ夏山シーズン突入。近年の夏山天候不順に悩まされないように楽しみましょう。